

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2015年10月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約

保全契約は、コミュニティが自然を管理するための仕組みで、コミュニティに求められる保全活動とその対価として提供される便益がセットになっています。私たちは、保全契約の内容についてコミュニティとの交渉を続けています。コミュニティの中には、便益を現金として得たいと考える人もいれば、稲作や家畜飼育といった生計向上プロジェクトを実施して欲しいと考える人もいて、意見をまとめるのは決して容易ではありません。保全活動としては、焼畑農業や保全対象の野生動物の狩猟をやめるといった活動が挙げられています。この交渉は時間のかかるプロセスです。全てのステップで、前回のお便りで紹介した「自由意思による (=Free)、事前の (=Prior)、十分な情報に基づく (=Informed) 同意 (=Consent)」(略して、FPIC)を徹底することで、コミュニティがいつでも「ノー」と言えるようにしています。コミュニティともう直ぐ保全契約を結べることを願っています。



コミュニティとのミーティング ©Conservation International/photo by Liam Walsh

東ニンバ山自然保護区の周りでの環境教育と普及啓発

今期、保全契約に向けた議論を続け、機運が高まるのを見守りつつ、環境教育と普及啓発に力を入れました。

小学校の環境クラブ

東ニンバ自然保護区の周りの 10 の小学校で作った環境クラブでは、子供たちが生態系、生物多様性、汚染といった幅広い内容を学んできました。子供たちの多くは、もうすぐ卒業を迎えます。将来、自然資源管理をさらに学び、保全を引っ張る次の世代となってくれることを願っています。

保全のメッセージを届ける劇団

リベリアで重要なメッセージを届けるために、大切な役割を果たす演劇。プロジェクトでも、地元の劇団と協力し、歌、踊り、物語を組合わせたいくつものプログラムをつくりました。そして、今期は、なんと 18 の村でショーを行いました。これまでにニンバの北部のほとんどの村を訪ねたこととなります。それぞれの村で、劇団は、生物多様性、違法な掘削、汚染、保全対象の動物種などについてメッセージを届けました。次の 2 ヶ月でニンバの南部の村々を訪ねる計画です。



劇団によるパフォーマンス ©Conservation International/photo by Liam Walsh

ニンバ郡コミュニティカレッジとの協力で保全フォーラム開催

ニンバ郡コミュニティカレッジとのパートナーシップによる保全フォーラムを今期もほぼ毎週開催しました。私たちは、首都モンロビアを含むリベリア各地から、様々な立場にある講師をニンバに招きました。保全地域管理、コミュニティによる森林管理、さらには沿岸環境管理といった幅広い内容についての講演をしてもらいました。この保全フォーラムは、学生からにも大変喜ばれており、来期も続ける予定です。



環境フォーラムに参加する学生たち ©Conservation International/photo by Liam Walsh